

一般財団法人京都ユースホステル協会

2021年度事業計画書

期間:2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日



“ Say Hi to the world ” ～旅の持つ力～

若者が世界（旅）の扉を開けて学びや発見に出会うために
ユースホステルはいつも彼らを応援していきたい

〒616-8191 京都市右京区太秦中山町 29 宇多野 YH 内
TEL: 075-462-2312 FAX: 075-462-2289
URL: <http://www.yh-kyoto.or.jp> E-mail: kyh@yh-kyoto.or.jp

目 次

目 次	2
はじめに	3
国際ユースホステル連盟採択基準	4
事業活動	
I. ユースホステル活動	5 - 6
II. 宇多野ユースホステル（指定管理事業）	7
III. ユースホステル関連活動	8
IV. 天橋立ユースホステル	9
V. 組織運営	10
予算概要	11
組織概要	12

はじめに

昨年度より新型コロナウイルスの感染が続く中で、今年度の事業や施設運営への影響が避けられないと共に、感染収束を見通すことがまだ難しい状況にあります。

しかし、緊急事態宣言等による感染拡大の抑制や予防ワクチンの接種開始など、感染の予防や拡大の抑制など、収束への期待を抱かせる状況も生まれつつあります。

そうしたことから今年度上半期では、まだ利用の減少が続くと見込まれる中で、運営の改善や業務の効率化、経費削減に引き続き努めます。

また、目先の課題だけではなく、利用の回復期以降を見据えた新しい予約・宿泊管理のシステムや機器の導入等による受付での接触機会の削減や業務処理の効率化を進めると共に、情報の分析や活用の迅速化、若手人材の育成など、中期的な課題解決にも合わせて取り組んでまいります。

コロナ禍で変わりつつある生活スタイルや余暇の過ごし方の変化は、ユースホステルの活動や事業、施設運営にとって新たな飛躍への機会と捉え、スピード感を持ってユースホステルらしさを調和させた事業や施設運営の差別化などを推進してまいります。

これらの取組により、ワクチン接種が行き渡り、感染者の大幅な減少と通常に近い生活への回復が期待される下半期には、より大幅な利用の回復や赤字の削減などの成果に繋げてまいります。

天橋立ユースホステルについては、引き続き地元出身のマネージャーに運営を任せ、地元資源の活用や連携を更に進め、持続可能な運営の達成を目指します。

宇多野ユースホステルや食堂の運営については、グループや団体、外国人利用の回復が見通せないことから、引き続き厳しい運営を強いられますが、この危機を変革と飛躍の機会と捉え、これまで先送りしてきた受付業務や利用・顧客管理等の改善、近隣を含めた個人や家族の体験的な旅での利用の魅力発信など、今後の利用ニーズの変化にも対応できる運営や組織の成長を図ります。

今年度、本格的な利用回復に向けて厳しい状況が続きますが、余裕のある運営資金等の確保に備えた短期借入金の借入限度額の設定など、コロナ禍での今後予期せぬ状況の変化や緊急な事態にも対応できるよう準備してまいります。

今年度は、厳しい状況を悲観するよりも、職員やスタッフの力を結集し、一つ一つできることを積み上げて行くと共に、幅広い関係先や団体等との連携、協力を更に進め、取り組みの新しい専門的な情報や知識、技術等の習得を図る他、多様なアイデアや人材の結集により、この危機を克服してまいりますので、引き続きご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

専務理事 高田光治

2014 年の国際ユースホステル連盟総会で採択された

『3 つの原則と 4 つの価値基準』

《3 原則》

I. 「旅する自由」「旅行者の平等」の原則

- ・ 手頃な料金の安全な宿泊施設の提供
- ・ 世界各地からやって来る人々に出会いの場を提供
- ・ 人種、国籍、肌の色、宗教、性別、階級、政治的信条に基づく差別を受けることのない宿泊
- ・ 違いや多様性の尊重
- ・ 障害者向けアクセス、奨学金／補助金での支援

II. 「学ぶ権利」の原則

- ・ 多様な文化的価値基準、人々、地域についての理解促進、好奇心の育成
- ・ 地域文化について学び、実地体験する機会を提供、間接教育の場／環境の提供
- ・ コミュニティへの参加意識（学習体験としてのコミュニティ参加）の促進
- ・ 人々／他の旅行者と長期にわたって出会う場の構築
- ・ 互いに学び合い、また他の文化や人との出会いからの学習

III. 「持続可能性に対する義務」の原則

- ・ 持続可能なツーリズム活動の推進
- ・ 財政的持続可能性／金銭的公平さ（給与）
- ・ 環境保護／二酸化炭素排出量の削減
- ・ 地域社会への貢献／フェアトレード

《4 つの価値基準》

I. 利用し易さ（Accessibility）

質の高い宿泊施設をグローバルに提供することにより、旅行の促進および普及に努める。
安全かつ手頃な料金／誰でも利用出来る施設提供／旅に関する情報とサービスを提供

II. 一体性（Inclusivity）

違いや多様性を認め、誰もが自分の価値を実感し、一体感を持てるよう努める。
すべての人に開放／違いや多様性の尊重

III. 学習と理解（Learning and Understanding）

次のことを通じて学習や理解の促進、支援に努める。
旅を通じて多様な文化、人々、地域について学習／責任あるツーリズムの促進／課外活動への支援／
コミュニティの一員としての活動

IV. 持続可能性（Sustainability）

次のように環境的にも社会的にも責任ある方法で行動する。
二酸化炭素排出量およびエネルギー消費の削減／リサイクル活動を通じて廃棄物の量を制限／
地域社会活動への貢献と参加／スタッフが働き、成長し、自分の価値を実感できる場の設定／
志を同じくする組織とパートナーシップを構築

ユースホステル・イメージ

say **HI** to the world - 旅の持つ力 -

若者が世界（旅）の扉を開けて 学びや発見に出会うために
ユースホステルはいつも彼らを応援していきたい

事業活動) Ⅰ. ユースホステル活動 (青少年・旅行事業)

新型コロナウイルスの影響は2021年度前半も続いていくものと考え、ユースホステル運動の軸である「旅の出会いと交流における青少年の成長」をサポートする事業を、新しい生活様式の中で実施可能な形で取り組みます。合わせて宇多野ユースホステルの宿泊実績につながり、話題作りになるユニークな事業を積極的に実施していきます。

特に、宇多野エリアの恵まれた野外環境を活かした焚火やチェアリング、テントサウナなど、宇多野ユースホステルのイメージに沿って、個性的でニーズがあり、初心者でも楽しめる環境アウトドアプログラムを、関係団体と事業協力をしながら発展させていきます。

また、まいまい京都でのまち歩きやオンラインツアー事業、青少年育成事業等の共催事業へのサポート、オンライン国際交流なども継続して実施します。

[事業分野別目標]

- イベント・事業活動参加者数 : 延 24,000 名 (20 年度実績見込み : 22,500 名)
- 青少年対象事業の参加者数 : 延 5,000 名 (" : 4,200 名)
- 新規・継続含め宿泊につながるプログラムの実施 : 4 企画

[活動内容]

1. ユースホステル交流創出事業

感染防止など安全に配慮した方法での交流環境を作っていくことが引き続き必要となります。ユースホステルの一番の特徴である“出会いと交流”を、宿泊者やスタッフ、イベンター、地域の方々にご協力いただき、活動の場を提供しながらコロナ禍での落ち込みを回復してまいります。

- a. 大学生や海外インターンシップ等の受入と、彼らが交流事業を含めたユースホステルの運営に参画できる課題提案 例) リアル&オンライン交流、ビデオムービー作成
- b. 交流促進のためのイベント「エブリデイワン」を安全に提供できる見直しと特長あるプログラムの実施

交流創出事業	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	合計
2020年見込	3名	25名	14名	10名	52名
2021年目標	20名	50名	200名	200名	470名



2. ユースホステル運動の普及活動と宿泊誘致

各事業はストーリー性を持ち、ユースホステル本来の「旅の中での青少年育成に寄与する活動」に繋がるプロセスである事を伝えとともに、ユースホステルを利用する事でその活動にコミットできるという事を発信します。

- a. 海外学校と地域の学校との国際交流事業
- b. モンベルフレンドフェアや地域のお祭りへの出展や講演等、PR・広報・ターゲットを絞った営業活動の実施
- c. 地域の歴史文化を知る団体「京都うなやと・歴史文化部」と連携し、地域市民へのユースホステルの認知度向上

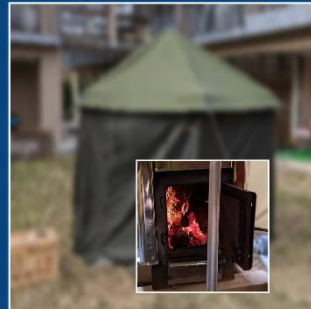
運動普及活動	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	合計
2020年見込	18名	28名	116名	15名	177名
2021年目標	30名	50名	250名	300名	630名

3. ユースホステル体験活動の促進

ユースホステル協会としてのノウハウを活かし、様々な団体と連携し共催や協力を行うことで、広く青少年育成団体である協会の存在意義を示す機会を増やします。

- a. 焚火庵やアウトドアプログラムの事業提携
- b. 年間を通した青少年向け共催事業の継続実施
 - 例) ネイチャーキッズ、アースレンジャー、ガリレオサイエンス等
- c. 京都の住民がガイドするミニツアー「まいまい京都」の継続サポート

体験活動	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	合計
2020年見込	5,148名	6,404名	6,122名	4,597名	22,271名
2021年目標	5,200名	6,500名	6,200名	5,000名	22,900名



事業活動）Ⅱ. 宇多野ユースホステル（施設運営）

コロナ禍が継続すると考えられる 2021 年度は、宿泊施設にとっては更に厳しい状況が続くと考えられます。先の見通しが立たない中ではありますが、人の旅に対する欲求は高まってきていると感じています。

今後 3 年間でコロナ禍以前の実績への回復を目指す 1 年目として、まずは経費をできる限る抑える運営に注力し、業務の効率化を図ります。状況に即した運営体制の確立を念頭におき、感染症対策と事業双方をあわせもった取り組みを企画し、集客に繋がります。

また、コロナ禍の中でも利用が見込める層に対して誘致活動を行い、新たなユースホステルのブランドイメージの構築に寄与する第一歩を図ります。

〔事業分野別目標〕

- 年間宿泊者数 : 17,500 名 (20 年度実績見込み : 4,200 名)
- 年間学校団体利用数 : 50 校 (" : 7 校)
- 年間スポーツ団体利用数 : 45 団体 (" : 7 団体)

年間宿泊者数	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計
2018 年度実績	9,477 名	8,749 名	9,773 名	7,393 名	35,392 名
2019 年度実績	10,227 名	9,034 名	9,315 名	4,723 名	33,299 名
2020 年度見込	173 名	1,451 名	2,295 名	660 名	4,579 名
2021 年度目標	2,570 名	3,720 名	7,440 名	3,770 名	17,500 名

〔活動内容〕

1. 経費の抑制と業務の効率化を図った運営基盤の確立

- ・限られた人員による効率的な運営体制の確立
- ・予約管理や顧客管理のシステム化や清掃業務の機械化導入
- ・先を見据えた施設改修やシステム開発等への投資

2. コロナ禍でも見込める層に対しての宿泊誘致と対応

- ・感染症対策の取り組みや動画サイトによる施設の PR
- ・オンライン予約サイトの整理と機能を活用したマーケティング、セットプランの販売
- ・家族利用の更なる促進とその先の子ども達だけによる旅の推進
- ・リピートに繋げる修学旅行やスポーツ団体、企業研修等の誘致

3. 京都の観光と宇多野ユースホステル周辺の自然環境を繋げ、活かす事業企画の展開

- ・屋外施設を使ったアウトドア企画のパッケージ化：焚火庵、テントサウナ、BBQ プラン等
- ・シェアサイクルやレンタサイクルを使った周辺観光のコースプランの作成、提供
- ・ノルディックウォークやヨガ体験等ヘルスルーリズムを意識し健康に配慮したプランの開発



事業活動）Ⅲ. ユースホステル関連活動（食堂・物販）

食堂部門においては、新型コロナウイルス感染症対策とあわせて食中毒や食物アレルギー対応など、食の安全安心について引き続き注力いたします。

また、各種団体向けにグレードアップした食事メニューの提案による客単価の向上や、海外に行けない今だからこそ国際色豊かな特別メニューの提供等を積極的に進め、食事を通じての宿泊誘致を図り、その中で「WOW（ワオ）」と言ってもらえるような取り組みやサービスをいたします。

〔事業分野別目標〕

■ 年間食事提供数：夕食 10,200 食 摂取率 59.9%

(20 年度実績見込み：2,344 食 摂取率：51.3%)

朝食 14,800 食 摂取率 85.0%

(20 年度実績見込み：3,216 食 摂取率：72.6%)

夕食数	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計
2018 年度実績	6,150	3,708	6,499	2,964	19,321
2019 年度実績	6,657	4,249	6,493	1,653	19,052
2020 年度見込	57	631	1,287	369	2,344
2021 年度目標	1,668	1,886	5,196	1,450	10,200

朝食数	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計
2018 年度実績	8,184	6,441	8,575	4,994	28,194
2019 年度実績	9,022	7,169	8,239	2,372	26,802
2020 年度見込	101	1,001	1,626	488	3,216
2021 年度目標	2,272	3,038	6,601	2,889	14,800

〔活動内容〕

1. 安心・安全の食の提供への取り組み

- ・団体向けに事前のやりとりの中でニーズを把握し、希望に沿った感染症対策を実施
- ・継続的な衛生面に関する意識の向上
- ・間違いのない食物アレルギーやベジタリアン、宗教食への配慮と対応

2. 「食が楽しい」ユースホステルの PR

- ・季節ごとや月ごとに特色を出した魅力あるメニューの提供
例) 世界各国をテーマにした料理、クリスマスディナーや
元旦おせち朝食、BBQ やキャンプ飯プラン等
- ・年間カレンダーの作成と広報
- ・団体グループ向けに料金アップした特別夕食の提案



事業活動）Ⅳ. 天橋立ユースホステル（施設運営・食堂・物販）

新型コロナウイルスの影響により旅の価値観やスタイルが変わりつつある中で、収束後の回復見通しが立たない状況ですが、その中でも宿泊者の期待に応える最大限のサービスを提供し、満足していただける施設運営を目指します。

そのために、地域資源を活用した新たな宿泊プランや食事プラン、地域と連携した体験イベントを実施します。

（運営業務受託者：Circle of travel てんてる 木村俊博）

〔事業分野別目標〕

■ 年間宿泊者数： 2,700 名 （20 年度実績見込み：1,390 名）

年間宿泊者数	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計
2020 年度見込	124 名	696 名	412 名	158 名	1,390 名
2021 年度目標	530 名	1,045 名	650 名	475 名	2,700 名

〔活動内容〕

- ・ 牡蠣一斗缶焼きプラン（期間：12 月～5 月）
半缶での牡蠣蒸し焼き、焼き牡蠣の食事プランを実施。
- ・ 野営プラン
新型コロナウイルス感染予防対策として自転車やバイクでの単体宿泊者が多くなっており、そういった方にテント設置場所の提供や飯盒炊爨のためのかまどや器具を貸し出し。館内の浴室と手洗いは利用可能。
- ・ 着物プラン
宮津市との連携キャンペーンとして着物で来られた宿泊者には宿泊費 10%割引。
- ・ コスプレ客歓迎
コスプレイヤーが撮影のために宿泊していた施設が営業を終了されるため、新たな受け皿として積極的に PR を実施。



〔地域との連携事業案〕

海外からの宿泊者にどのようなことが体験したいかと聞いたところ、「昔の生活に触れてみたい」や「日本食を作る体験をしてみたい」、「コスプレがしてみたい」、「鬼滅の刃を知った。鬼についてしりたい」などの意見がありました。

京都府宮津市は、明智光秀・細川家など有名な武将ゆかりの地でもあるので、各地域観光協会やサークルの方々と連携を図りながら、学んで楽しむイベントを企画していきたいと思います。

また、「酒吞童子」の物語を知っている外国人宿泊者からもっと詳しく知りたいとの要望があったので、英語版の酒吞童子物語り資料を集めました。今後、福知山市大江町の瓦博物館と連携して、通訳ボランティアも募り、海外の方も楽しめるツアーも考えていきたいと思います。

事業活動) V. 組織運営 (総務)

2021年度は、協会運営にとって非常に重要な年となります。“ウィズコロナ”や“アフターコロナ”、“ポストコロナ”など、色々な呼び方がありますが、コロナ禍での生活を過ごした中で考え方や価値観、生活スタイルが大きく変化しており、今まで通りの協会運営では持続可能な運営を行うことは難しいと考えます。私たちも今まで考えることのなかった発想やアイデアを試行し、様々な変化に対応していくことが求められております。

組織運営では、今まで取り組むことのなかった思い切った変化や転換につなげるプランを立案し、各部門と連携しながら改善に努めたいと思います。

同時に、日常的に人員不足が起こることが想定されるため、引き続き部門を越えて作業をサポートし、事業活動が滞ることがないように努めます。

[活動内容]

- 効率的な運営につなげるための新たな運営方法の検討や各種制度の見直し
- 外部資源を活用した効率化の試行
- 補助金や助成金の活用した経費削減の取り組み
- 枠を越えた横断的な運営サポート



予算概要

〔予算概況〕

2020年度は新型コロナウイルスの甚大な影響を受け、京都市からの運営補償金や各種補助金・助成金を受給した上で15,614,209円の赤字が見込まれます。そして、2021年度はそういった支援を期待することが難しく、また当面は宿泊者の回復が難しい状況が続くことが予測されるため、年間を通しての運営は更に厳しい状況になると考えております。

特に、指定管理事業の宇多野ユースホステル施設運営と自主事業の宇多野ユースホステル食堂運営が協会全体の収入で大きな割合を占めるため、効率的な施設運営や集客、利用単価を高める食事提供などに取り組む中で、収益改善を図ることが重要となっております。

そうした中で、退職者の補充を見送り、更に減員した体制で部門や役割を越えて業務を補完し合うなどにより、経費削減に努めます。特に回復の見通しが難しい第1四半期は、可能な限り経費を抑えて乗り切ります。第2四半期以降は段階的に体制を増やす計画を立てておりますが、厳しい状況が続く場合は更に人員補充を先送りするなど、状況に応じて対応してまいります。

また、新たな宿泊キャンペーンや助成金を活用した宿泊プログラムの実施、食事メニューの刷新による販売数の向上、研修や合宿での利便性を向上させるサービスの提供などにより、宿泊収入や食事収入の回復に努めます。

2021年度は、こうした取り組みを実行しても当期経常増減額は▲25,629,000円の大幅な赤字が見込まれ、次期正味財産増減額は58,884,956円となる見込みです。

2月よりワクチン接種が始まりましたが、接種計画の変更等による旅行への影響も心配されることから、手元資金を充実できるように無利子無担保の融資制度を活用し、上限3,000万円の借入限度額の設定を行い、そうした事態に備えてまいります。

〔経営実績の推移〕

	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度見込	21年度予算
経常収益（売上）	214,339,353	198,404,625	195,286,399	96,791,702	114,172,000
ユースホステル活動及び関連活動	63,004,591	58,260,571	55,006,688	14,736,486	33,261,000
指定管理業務及びYH運営	142,191,531	130,710,600	131,250,648	72,593,606	73,546,000
組織運営業務	9,143,231	9,433,454	9,029,063	9,461,610	7,365,000
経常費用（費用）	210,018,271	201,744,193	187,225,738	112,405,911	139,801,000
ユースホステル活動及び関連活動	56,369,907	53,730,216	50,501,462	18,715,796	32,459,000
指定管理業務及びYH運営	143,746,095	138,033,091	129,376,348	86,689,663	100,018,000
組織運営業務	9,902,269	9,980,886	7,347,928	7,000,452	7,324,000
当期経常増減額（経常利益）	4,321,082	▲3,339,568	8,060,661	▲15,614,209	▲25,629,000
経常外増減額（経常外利益）	▲1	▲869,935	0	0	0
当期正味財産増減額（純利益）	4,321,081	▲4,209,503	8,060,661	▲15,614,209	▲25,629,000
次期正味財産期末残高	96,277,007	92,067,504	100,128,165	84,513,956	58,884,956

（内、公益目的事業）

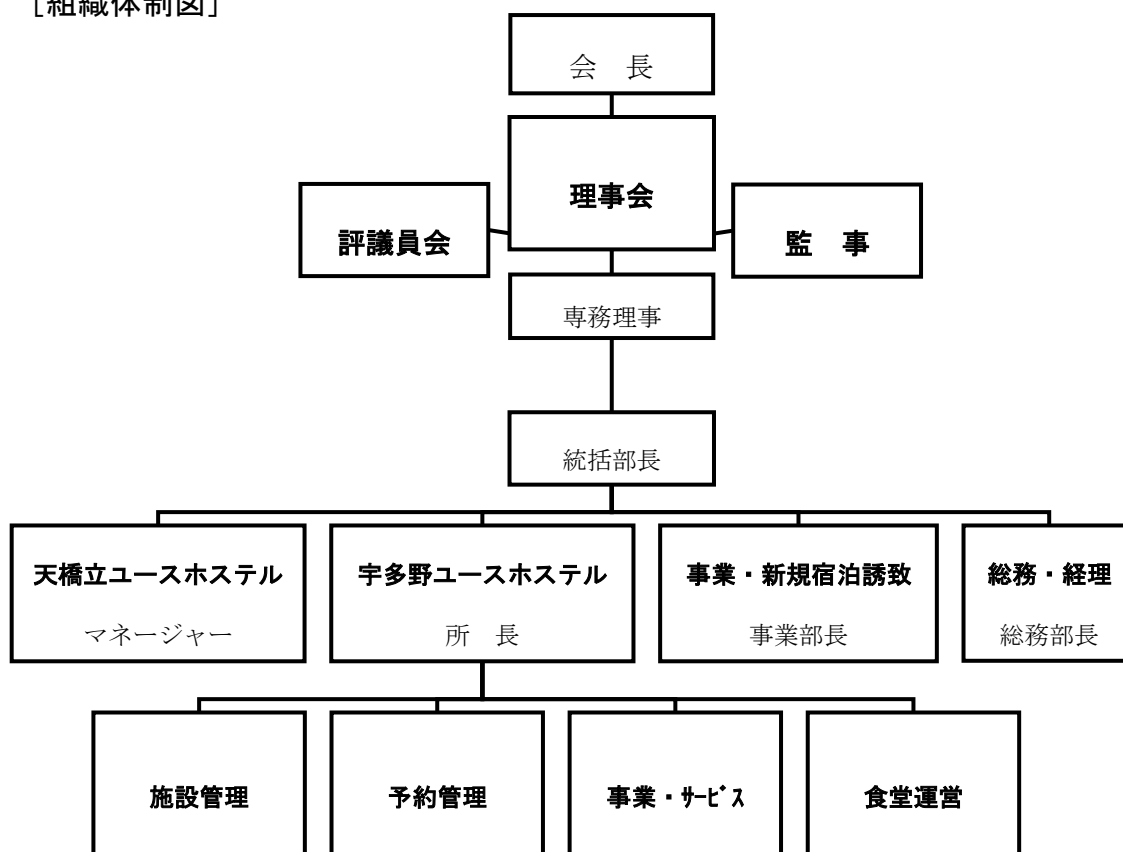
	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度見込	21年度予算
公益目的財産額（期首）	53,845,519	50,657,098	38,829,226	39,392,752	23,735,319
公益目的収支額	▲3,188,421	▲11,827,872	563,526	▲15,657,433	▲27,616,000
公益目的財産額（期末）	50,657,098	38,829,226	39,392,752	23,735,319	0

組織概要

〔組 織〕

現状を打開するために枠を超えた協働と新たな取り組みに挑戦し、ピンチをチャンスに変え、組織と個人の更なる成長と実績回復を目指します。

〔組織体制図〕



〔協会役職員数〕

評議員：8名、理事：8名、監事：3名、職員：23名（アルバイト・パート含む）

〔協会名〕	一般財団法人 京都ユースホステル協会
〔代表者の役職氏名〕	会長 堀場 厚
〔財団設立〕	1968年2月12日
	※ 2011年8月1日（一般財団法人へ登記移行）
〔協会所在地〕	京都市右京区太秦中山町29 宇多野ユースホステル内
〔電話番号〕	075-462-2312（代表）